

令和4年度 第5回 若葉区区民対話会概要
「地域課題の解決に向けた意見交換」
(みつわ台中学校区町内自治会連絡協議会)

1 区長挨拶

2 意見交換

(地域の抱える課題の共有と活気あるまちづくりに向けた方策について)

- ・高齢化で役員のなり手がいなくなってきたり、場合によっては自治会の解散も考えられる。盆踊りなどのイベントを行うのは難しいので、高齢者でもできる、もっと簡単な組織、行政とのつながりだけを保つような体制でできないものか。
- ・自治会業務を誰かが引き受けてくれる仕組みやアウトソーシングはできないか。
- ・コロナ以来、運動会が中止となっているが、開催するとしても、高齢化、家族の介護、子どもが小さいというような理由で役員を辞退する人もいる。
⇒(区長)他の地域でも同様の問題を抱えている。NPOや青少年育成委員会など他の団体と連携して自治会の運営やイベントの開催をしている地域もある。若い人を取り込み、一緒にやることで負担が軽減されると思う。
「ぷらっとWAKABA」という相談窓口が地域振興課にあり、他の自治会の活動事例の紹介や、自治会以外の地域で活動している団体の紹介などを行っているので、ご相談いただきたい。
- ・千葉市では敬老会の対象が以前は65歳以上だったが、現在は75歳からとなっている。敬老会の対象とならない高齢者が元気であるための工夫はあるか。
- ・高齢化により介護に不安を抱える家庭が増えているが、地域としてどう支援できるか。
⇒(区長)他の自治会では、年配者の集まる場としてお茶会や囲碁の集まり、ウォーキングやラジオ体操を行っているところもある。家から出てもらうことが大事で、今日のような会合も集まる機会の一つである。
また、自治会やNPOで支えあいや見守り活動を行っているところがある。対象者の見守りと安否確認を兼ね、家まで配食をする取り組みを行っている自治会もあるので紹介したい。
- ・敬老会の補助金について、敬老会に参加した人を対象としているが、参加したいが参加できないような人には補助金がない。
⇒(区長)参加しない人のうち、参加の希望があるが行けない人と、参加を希望しない人を見分けるのが難しい。補助金を出すのに予算的な限度があるので、ルール化した結果が現状となっている。

- ・昔は地域に人がたくさんいたが、今はシャッター街となり、活気をなくしている。
- ・地域のまつりの支援をお願いしたい。
⇒(区長)スタンプラリーの開催など色々方策はあると思う。この地域は比較的子どもが多く、みつわ台桜まつりにも子どもが来ている。子どもが来ると親も来るので、そのような視点で考えてみてはどうか。
地域のまつりは支援していきたい。
- ・自治会回覧について、紙でも電子でもいいことになっているが、両方ともやるのは大変。ただ、電子回覧を取り入れることで、会員は楽になったと思う。
⇒(区長)LINEを活用した回覧を実施している自治会もある。市としては役員の負担が少しでも減らせる方法を検討しているが、高齢者などデジタル化になじまない方もいるため、どうしても紙と電子の2本立てになってしまう。
- ・自治会活動を継続するため、若い人たちが積極的に関わってくれる方策や呼びかけの方法はあるか。会長一人に負担がかかっているが、一緒にやろうという人が少ない。
⇒(区長)なぜ自治会が必要か、日頃から付き合いがないと有事の際に協力できない、普段から顔を合わせているから災害時の対応がスムーズにいく、といったことをお伝えいただきたい。
会計などの事務処理や自治会からのお知らせを電子化することで、役員の事務負担が軽減されると思う。
会長が一人で全てやろうとすると大変なので、うまく複数人でやりくりできるような工夫があるといい。若い人に報償費を払ってお願いしているところもある。また高齢者も豊富な知識と経験を持っているので、元気な方に声をかけてみてはどうか。
- ・子育ての指導員が若葉区には1人しかおらず、曜日・時間が限られ相談しにくい。予算をかけて、専門性のある人材を置き、しっかり子育て支援情報を教えていただきたい。千葉市はいま「住みやすい街100傑」に入っていない。公園の見直しも含め、もっと子どもが住みやすい街を目指してほしい。
⇒(区長)こども未来局や都市局にご意見を伝える。

以上